

# 施策マネジメントシート（令和 4 年度目標達成度評価）

第2次 総合計画 体系	政策 No.	8	政策名	幅広い交流を深め にぎわいのあるまち
	施策 No.	1	施策名	多様な文化の理解と様々な交流の推進
施策主管課	企画政策課		施策関係課名	文化課・商工観光課・教育総務課・学校教育課・生涯学習課・人権・同和対策室

## 1 施策の目的（①対象③意図）と指標（②対象指標④成果指標）等の推移

①対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		③意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)						
市民		<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な文化を理解することの必要性を感じる</li> <li>主体的に様々な交流活動に取り組む</li> </ul>						
④成果指標 (意図の達成度を表す指標)		単位	数値区分	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	成果指標の達成状況及び要因
1	多様な文化を理解することの 必要性を感じる市民の割合	%	目標値	52.0	53.0	54.0	55.0	1) 概ね達成。目標値(52.0%)まで届かず、 年度毎の推移もほぼ横ばいとなっている。市 民アンケート調査で「必要」「どちらかといえ ば必要」と回答した割合の合計では、20歳代 から40歳代で97%以上と高く、国際文化等 に対する理解が浸透していると思われる。逆 に「必要ないと感じている市民の割合」は2% 程度と割合的にも非常に低くなっている。 2) 達成。目標値(35.0%)を達成しており、年 度毎の推移も上昇している。特に10歳代、20 歳代で低い割合になっている。また、地域別に みると三里校区で41.7%、砥川地区では 52.2%と比較的高い割合となっている。
			実績値	49.9	51.8	51.8	51.8	
			達成率	96.0%	97.7%	96.1%	94.2%	
2	主体的に様々な交流活動に取り 組んだ市民の割合	%	目標値	35.0	38.0	42.0	46.5	
			実績値	39.9	38.8	38.8	38.8	
			達成率	114.0%	102.0%	92.4%	83.4%	
3			目標値					
			実績値					
			達成率					
4			目標値					
			実績値					
			達成率					
5			目標値					
			実績値					
			達成率					

## 2 施策（基本事業）の振り返り

基本事業	(施策の目標達成に向けて、どのように取り組んだか。)
国際交流推進のための環 境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>多文化共生の推進を目指し、ウェルカムパッケージ「ようこそおぎしへ」を作成し、市民課窓口に配置した。</li> <li>おぎ日本語教室主催、小城市共催で、「やさしい日本語で交流会」を企画した。【コロナにより中止】</li> <li>地区要望を受けた環境課から依頼を受けて、ゴミ出しルールの翻訳（ベトナム語）を作成した。</li> </ul>
様々な交流活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナの影響により各都市のお祭り等は中止であったが、パネル展や平和講座は例年通り実施した。</li> <li>市ホームページに地域間交流の新規ページを作成して、友好姉妹都市の南九州市や千葉氏連携の自治体などの情報を連携するとともに、SNS等による情報発信の相互乗り入れの検討など、関連情報の情報発信手段の検討を行った。</li> <li>千葉氏に関連し「鎌倉殿の13人」トークライブを開催し、講演前に千葉氏サミット構成市町のコメント動画を流すなど、都市間交流の一環とした取り組みが実施できた。</li> <li>地域のまつりはコロナ対策を行い、一部内容を変更するなどして開催された。</li> </ul>

## 3 施策の課題（基本計画で掲げた施策の「現況と課題」、成果指標の達成状況を踏まえて、次年度以降に向けた施策の課題）

<ul style="list-style-type: none"> <li>中国海鹽県との行政間相互訪問においては、コロナ禍により令和2年度から令和4年度にわたり中止になった。令和5年度は海鹽県からの訪問で再開を予定していたが、中国でアジア大会等国際大会が開催されるため、訪問できない旨の連絡があった。今後、海鹽県と正式な協定締結を行うのかについては検討の余地があり、中国語翻訳者の確保や、人事異動の影響を受けない安定的な連絡手法の確立が課題となっている。</li> <li>コロナの影響もあり関係都市との具体的な連携策を検討できていない。</li> <li>地域のまつりを実施する上で、担い手不足により事務局を担う組織が縮小してきている。</li> </ul>
--

## 4 今後の取り組み（課題解決に向けた今後の取り組みの方向性・内容等）

<ul style="list-style-type: none"> <li>都市間交流そのもののメリットや、市としての姉妹都市の考え方を明確にし、地域活性化の原動力になる交流機会の推進を図っていく。</li> <li>地域のまつり支援事業として、実行委員会を包括する地域運営組織の形成と、効率・効果的な活用が見込まれる一括交付金に向けた庁内検討を進めていく。</li> </ul>
---